

「普通教育と専門教育の体制整備」に関する検証報告書の骨子（案）

1. 検証の目的

- ① 高校教育改革の成果等に関する検証の結果を新県立高校将来構想の実施計画のローリング等に反映させるなどして高校教育改革の着実な推進及びその改善に結びつけていく。
- ② 併せて、検証のプロセスと結果を適時、的確に県民に情報提供し、高校教育改革に係る県民への説明責任を向上させていく。

2. 検証の観点

- (1) 教育に係る各種施策が学校現場においてどのように展開され、具体的にどのような成果や課題が生じているのか、その実態を的確に把握する。
- (2) 教育に係る各種施策の合理性や有効性を含めて成果や課題を明らかにするとともに、今後の対応の方向性を検討する。

3. 検証の対象施策

- (1) 現県立高校将来構想及び新県立高校将来構想の計画期間中（平成13～32年度）に実施され、又は実施が見込まれる施策
- (2) 本県高校教育の制度・枠組みを変更する施策であって、生徒及び保護者に与える影響が大きいもの
- (3) 社会の変化や時代の要請を踏まえて、その方向性を常に点検していく必要がある施策

4. 本報告書での検証対象

「普通教育と専門教育の体制整備について」

5. 検証の実施方法（県立高等学校将来構想審議会の概要）

- (1) 開催日程と議事
- (2) 検証事案の調査方法

6. 本県の県立学校の概要（平成22年度現在）

- (1) 学校数・生徒数・教員数
- (2) 高校配置状況
- (3) 学科構成

7. 本県の高校教育改革の背景

- (1) 生徒の多様化への対応
- (2) 少子化への対応
- (3) 地域との連携
- (4) 行財政改革

8. 本県の高校教育改革の取組（教育庁の施策）について

- ①特色ある学科の設置・充実
- ②学校の適正配置
- ③開かれた学校づくりの推進
- ④教育諸条件の整備（学力の向上・キャリア教育の充実）
- ⑤男女共学化の推進
- ⑥全県一学区化

9. 本県の高校教育改革の成果と課題について【資料2・3】

（1）学科別の検証

- ①普通科
- ②専門学科（職業系）の設置・改編
- ③総合学科
- ④昼夜間開講型定時制高校

（2）総括

- ① これまでの高校教育改革の大きな流れは、高校進学率の上昇に伴う多様化への対応だった。生徒の選択肢を拡大する方向で高校教育改革を進めてきたが、必ずしも学力の定着や勤労観・職業観の醸成につながっておらず、今後の対策が必要。
- ② 高校教育は今後も多様性を前提としなければならず、だからこそ、各高校においては地域における高校の役割や生徒の特性を見定めた上で教育課程を編成する必要がある。特に、就職志望の生徒が多い高校については、社会への接続を重視した教育の実践が望まれる。

10. 提言

（1）社会人として必要な学力・態度の定着に向けた取組の必要性

- ① 高校が最終の学校教育となる生徒に対しては、高校生活の中で社会人・職業人として必要な学力・態度を身につけさせるため、職業教育による実習やインターンシップなどの体験学習を積極的に導入するなどの取組が必要である。特に後者の取組は、学校での学習と社会で必要とされる知識・技能との関連を実感させ、学ぶ意欲を向上させる点でも重要である。
- ② 学力・意欲の面で課題がある生徒に対しては、義務教育段階での学習内容の確実な定着や、学校の学習と社会とを関連づけた教育の実践が望まれるが、一つの方策として、これらの教育に特化した高校の設置が考えられる。
- ③ また、多様な学習歴・生活習慣を有する生徒の学ぶ場として多部制定時制高校の役割は大きく、未設置地区への設置に向けて検討を進めるべき。

（2）職業教育・キャリア教育に関する検討の必要性

- ① 高校の職業教育において地域や企業が求めている人材をどのように育成するかを見定めることが重要であり、新たに設置すべき学科も含め検討が必要。
- ② 就職志望の生徒が多い高校については、普通科・専門学科を問わず、学校の学習と社会とを関連づけた教育が特に重要であり、学科ごとの職業教育及びキャリア教育の在り方を見定め、学科改編や教育課程の編成に反映させることが重要。

(3) 震災復興に向けた高校教育改革の在り方について【議事(3)】

① 県の震災復興基本計画の理念

今後の県立高校の在り方を検討するに当たっては、県や各市町の復興計画を踏まえる必要がある。

「宮城県震災復興計画(第1次案)」では、復興の理念として「平成23年3月11日以前の状態へ回復させるという『復旧』だけにとどまらず、これからの県民生活のあり方を見据えて、県の農林水産業・商工業・製造業のあり方や、公共施設・防災施設の整備・配置などを抜本的に『再構築』することにより、県勢の発展を見据えた最適な基盤づくりを図っていくことが重要です。そして、災害からの復興にとどまらず、人口の減少、少子高齢化、環境保全、自然との共生、安全・安心な地域社会づくりなど現代社会を取り巻く諸課題を解決する先進的な地域づくりに取り組んでいく必要があります」としている。

② 震災復興に向けた高校づくりの視点

イ 被災地区の復興に寄与する高校づくり

- ・地域づくりとの関わり
- ・産業との関わり
- ・他の教育機関との連携

ロ 宮城の復興を担う人材の育成

- ・生徒へのきめ細かな指導
- ・インターンシップやボランティアの充実
- ・教育課程の充実